



Annual Report
2002

IT連携フォーラムOACIS

Osaka Advanced Research Collaboration Forum
for Information Science & Technology

「IT連携フォーラム2002年度の活動を振り返って」

OACISチェアマン

宮原 秀夫 (大阪大学 大学院情報科学研究科長)

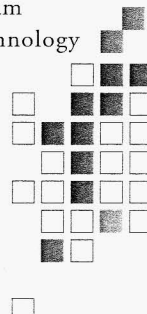
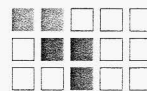


昨年4月の発起人集会においてその発足が決定されましたIT連携フォーラムOACISは、IT(情報技術)、バイオ情報技術を主要テーマとして、7月の設立総会以降活発な活動を順調に行ってまいりました。これもひとえに、会員企業の皆様の多大なるご協力の賜物と感謝しております。

昨年度4月に発足した大学院情報科学研究科、および、2000年4月に発足したサイバーメディアセンターは、大阪大学における情報科学技術分野の組織基盤を磐石なものとし、互いに有機的に機能することによって同分野の教育研究および社会との連携に関する確固たる地位を築きつつあるものと自負いたしております。特に、昨年度は、上記2組織による共同提案プロジェクト「ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出」が文部科学省21世紀COEプログラムに採択されました。これも、大阪大学のみならず、わが国の情報科学技術分野における私共の果たすべき役割に対する期待の証左であると考え、今後のますますの精進に新たな決意で望もうとしているところであります。

昨年度は、OACIS発足1年目ということもあり、3回のシンポジウム、5回の技術座談会を通じて、私共の研究成果と会員企業の皆様の要求を結びつける交流の場を提供し、産学連携の萌芽となるべき技術課題を抽出することに注力してまいりました。幸い、シンポジウムや技術座談会には多数の参加者を得ることができ、活発な議論の中から今後OACISが重点的に取り組むべき方向性も明らかになりつつあります。例えば、技術座談会を発展させ、大学教員と学生、企業研究者の共同研究体制を築く研究プロジェクトの発足には早急に取り組んでいきたいと考えております。また、それ以外にも、技術情報のコンサルタント、研究員の相互受け入れ、大学院生のインターンシップなど、多様な方策により、より一層密接な、真の意味での産学連携を実現させてまいりたい所存であります。

大阪大学を含む国立大学の独立行政法人化が来年度に迫る中、大学は、社会に知の交流の場を提供し、さらには、有益な知的資産を社会に提供する役割をなお一層期待されております。大学院情報科学研究科、サイバーメディアセンターは、OACISを通じて産学連携を発展させることにより、関西圏を中心として日本経済の活性化に貢献していけるようなお一層努力してまいりますので、会員企業の皆様においても今後ますますのご高配を賜ることができれば幸いです。



IT連携フォーラムOACISへの期待

西日本電信電話株式会社 代表取締役社長 上野 至大

IT連携フォーラムOACISは、昨年7月の設立以来、3回のシンポジウム、5回の技術座談会の開催など、活発な活動が展開されました。OACISが産学交流の場として順調に活動を開始しましたことをお喜び申し上げます。

この一年のOACISの活動を通して、大阪大学大学院情報科学研究科ならびにサイバーメディアセンターのポテンシャルの高さを改めて認識することができました。ご存知の通り企業を取り巻く環境はますます厳しくなっており、産業活性化に向けて模索をしている状況にあります。企業としましては、この大学のポテンシャルを産業活性化に大いに活用させて頂きたいと考えております。そのためには、産学の相互理解をさらに促進し、企業のウォンツと大学のポテンシャルをマッチングさせる必要があります。また、マッチングにより顕在化した研究を産学が協力して推進し、その成果をいち早く世の中に出して役立てる必要があります。

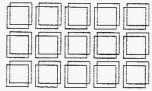
2年目を迎えるOACISの活動が単なる情報交換の場に終わることなく、産学の密接な連携の下にお互いに知恵を出し合い、共同研究プロジェクトを推進することによって、新しい産業の芽の創出につながることを期待しますとともに、大学ならびに企業の皆様のより一層のご尽力をお願い申し上げます。

OACISの目的

- ・大阪大学大学院情報科学研究科、サイバーメディアセンターと産業界との連携
- ・情報技術(IT)とバイオ技術を主要テーマ
- ・実効のある「産学連携」
 - 大学研究者と企業関係者の相互理解
 - 先進的な研究成果と社会の要求を結びつける場
 - 共同研究、実用化プロジェクト立案

今年度の主な活動

- ・シンポジウムの開催(3回) : 総合的な交流の場
- ・技術座談会の開催(5回) : 個別テーマの討論
- ・ソフトウェア工学工房セミナー : 技術座談会の発展
- ・IPAプロジェクトの紹介 : 産学連携共同研究のサポート



第一回シンポジウム

開催日時・平成14年7月12日 会場・大阪大学銀杏会館
参加対象・IT連携フォーラムOACIS 会員および入会希望会社・団体
参加者数・183名

開会の挨拶

大阪大学 大学院情報科学研究科研究科長

宮原 秀夫

来賓挨拶

西日本電信電話株式会社 代表取締役社長

上野 至大

独立行政法人通信総合研究所 理事長

飯田 尚志

特別招待講演 I

「米国に於ける産官学連携の マネジメントと現状」

米国カリフォルニア大学アーバイン校 教授

須田 達也

開発成果紹介

「大阪大学大学院情報科学研究科および サイバーメディアセンターのアクティビティ」

情報システム工学専攻・マルチメディア工学専攻・バイオ情報工学専攻

特別招待講演 II

「我が国の産学連携の問題点」

株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長

畚野 信義

第二回シンポジウム

開催日時・平成14年11月11日 会場・千里阪急ホテル
参加対象・IT連携フォーラムOACIS 会員および入会希望会社・団体
参加者数・170名

講演 I

「産学連携とベンチャービジネスについて」

大阪大学 大学院情報科学研究科情報システム工学専攻 教授

白川 功

講演 II

「サイバーメディアセンターのアクティビティ」

大阪大学 サイバーメディアセンター 教授

下條 真司

講演 III

「情報ネットワーク学専攻のアクティビティ」

大阪大学 大学院情報科学研究科情報ネットワーク学専攻 教授

村田 正幸



第三回シンポジウム

開催日時・平成15年3月11日 会場・千里阪急ホテル
参加対象・IT連携フォーラムOACIS 会員および入会希望会社・団体
参加者数・155名



基調講演 I

「ユビキタスネットワーク社会の実現に向けて」

総務省情報通信政策局 研究推進室長

渡辺 克也

基調講演 II

「ベンチャービジネスの立ち上げにあたって」

サイボウズ株式会社 取締役副社長

畑 慎也

パネル討論 「産学連携のあり方」

<パネリスト>

NTT先端技術総合研究所 所長

東倉 洋一

ソニー株式会社 関西代表

金田 嘉行

大阪大学 大学院情報科学研究科情報システム工学専攻 教授

白川 功

インテック・ネットコア株式会社 取締役企画部長

中川 郁夫

倉敷芸術科学大学 助教授

小林 和真

<司 会>

大阪大学 大学院情報科学研究科情報システム工学専攻 教授

菊野 亨

技術発表：起業教育と産業活性化の実践

「情報技術を活用した産官学連携による

地域産業活性化への挑戦」 - 佐賀モデルの展開と今後 -

佐賀大学 理工学部 非常勤講師

慶應義塾大学 大学院経営管理研究科 博士課程

有限会社イーサー・ガイ 代表取締役社長

飯盛 義徳

オーガナイザ・司会：佐賀大学 理工学部知能情報システム学科 助教授

渡辺 健次

技術発表：いつでもどこでもインターネットの音声利用とインターネットのアクセシビリティ向上

「車載用ネットワーク型音声インタフェースの検討」

東京大学 大学院情報理工学系研究科 助手

西本 卓也

「街中無線インターネットで、いつでもどこでもe音声」

NPO法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター (SCCI) 代表理事

みあこネット専業統括責任者

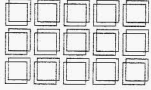
高木 治夫

オーガナイザ：東京女子大学 現代文化学部コミュニケーション学科 助教授

渡辺 隆行

司 会：東京大学 情報基盤センター 助教授

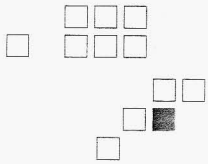
中山 雅哉



第一回技術座談会

「ソフトウェア工学とプログラム解析」

開催日時：平成14年9月24日 10:00～12:00
開催場所：日本能率協会（大阪市中央区安土町2-3-13大阪国際ビル28階）
講師：大阪大学 大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻
教授 井上 克郎・助教授 楠本 真二
参加人数：24名

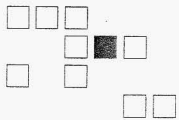


本座談会では、ソフトウェアの生産性や品質の向上を実現するための技術であるソフトウェア工学の歴史と現状について紹介した。また、ソフトウェア工学の研究分野の一つであるプログラム解析において、我々の研究室で行っているコードクローン検出技術とプログラム部品の重要度評価手法の2つの技術について解説した。特に、コードクローン検出ツールCCFinderについての興味が高く、座談会終了後、参加者全員を対象としたコードクローンメーリングリストを作り、コードクローンに関する情報交換、ツールの配布等の場として活発に活動を続けている。

第二回技術座談会

「バイオインフォマティクス：バイオ分野へのITの応用について」

開催日時：平成14年10月30日 16:00～18:00
開催場所：日本能率協会（大阪市中央区安土町2-3-13大阪国際ビル28階）
講師：大阪大学 大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻
教授 松田 秀雄
参加人数：18名

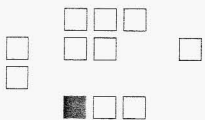


バイオ分野の特徴としてデータ量が急増しており、膨大な文字列照合と複雑な知識情報処理が必要となっている。本座談会では、我々の研究室で開発した技術のうち、遺伝子のDNA配列および遺伝子発現プロファイルから生物学的な知見を引き出す方法の紹介を行った。遺伝子発現プロファイルとは、生体内での遺伝子の活動量のこと。本技術は、マウスとヒトの新規遺伝子に対して生物学的な機能の注釈付けを行う国際会議において実際に用いられている。バイオ分野と情報分野との学際領域であるため、当日は情報関連の企業に加えて製薬企業、特許事務所の皆様に参加されていた。講演後には様々な角度からの貴重なご意見を多数頂くことができた。

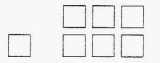
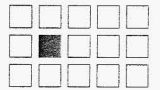
第三回技術座談会

「情報セキュリティ：プロトコルの設計、安全性検証について」

開催日時：平成14年12月6日 10:00～12:00
開催場所：日本能率協会（大阪市中央区安土町2-3-13大阪国際ビル28階）
講師：大阪大学 大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻
教授 藤原 融
参加人数：15名



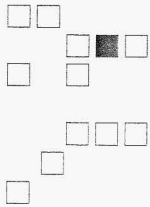
今やセキュリティ技術なくして、ネットワーク上で何もできなくなりつつある。しかし、暗号を使えばそれで大丈夫という訳でもない。講師の研究グループでは情報セキュリティに関する基盤研究を中心に活動している。今回は、暗号や認証技術等の基礎技術について簡単に説明した後、本研究グループで行っている以下の2つの研究テーマについて紹介した。テーマは、安全なサービスを実現するプロトコルの設計、及びプロトコルの安全性検証であった。参加者の皆様からも、ご質問や有益なご意見をいただいた。また、この回から講演の後、昼食を兼ねた懇談会を開催し、1時間ほどであったが、参加者と講師、また、参加者同士で、情報セキュリティ技術やその周辺について語り合うことができた。



第四回技術座談会

「セキュア・ネットワーク構築のための技術ならびに人材育成について」

開催日時：平成15年1月16日 15:00～17:00
開催場所：日本能率協会(大阪市中央区安土町2-3-13大阪国際ビル28階)
講師：大阪大学 サイバーメディアセンター
教授 下條 真司・講師 野川 裕記・客員助教授 齋藤 和典
参加人数：17名

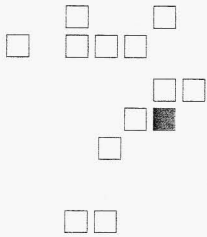


大阪大学サイバーメディアセンターからは、「①セキュア・ネットワーク構築のための技術」、「②人材育成プログラム」の2点について講演を行った。①に関しては齋藤客員助教授が講演を行い、セキュアネットプログラムにおいて講義されている技術内容について概略を説明した。②に関しては野川講師が講演を行い、セキュアシステムについての考え方やセキュアネットプログラム全体の概略を説明した。講演の後、参加者を含めた全員で活発な討論を行い、セキュリティ教育のカリキュラムのあり方について有意義な情報交換を行うことができた。セキュアネットプログラムに対する期待は非常に高く、現在のセキュアネットの講義がその期待に十分応えきれていないことが明らかとなった。なお、参加者の中にはセキュアネットプログラムへの参加を表明された方がおられ、参加者のセキュアネットプログラムへの関心の高さを示す一例となった。

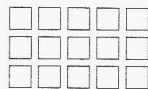
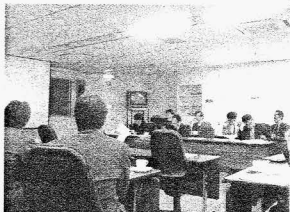
第五回技術座談会

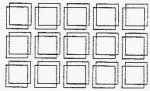
「人間主体のヒューマンインタフェース技術」

開催日時：平成15年3月31日 10:00～12:00
開催場所：日本能率協会(大阪市中央区安土町2-3-13大阪国際ビル28階)
講師：大阪大学 大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻
教授 岸野 文郎・助教授 北村 喜文
参加人数：13名



コンピュータと人の間のギャップを埋め、使いやすい情報機械・システムを作り上げてゆくために、ヒューマンインタフェースの研究は重要である。この観点で、大阪大学で取り組んでいる研究の中から、3次元インタフェースに関して、複数人が顔を合わせて行う協調作業を支援するためのディスプレイ装置として、多人数共有型立体ディスプレイと、複数の利用者の個人情報と公共情報をシームレスに共存させて表示できる新しい協調作業用ディスプレイの2つの内容について紹介した。また、手指や全身の動きを計測してこれをうまくヒューマンインタフェースに利用するために、重回帰分析を用いる方法について紹介した。参加者の方々と活発な質疑応答がなされ、議論はその後の昼食会の1時間でも尽きないほどであった。年度末ということもあってか出席者は少数であったが、多くの方は初めての参加であり、本座談会が専門分野を絞った技術交換の場として定着しつつあることを窺わせた。





IPAプロジェクト 紹介

政府等の競争的外部資金による

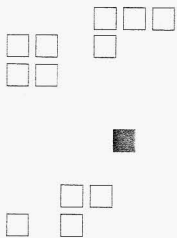
「産学連携共同研究プロジェクトのサポート」

開催日時：平成14年8月2日

開催場所：大阪大学 大学院情報科学研究科（豊中キャンパス）

講師：カリフォルニア大学アーバイン校 情報コンピュータサイエンス学部
教授 須田 達也

参加人数：20名



情報処理振興事業協会による「次世代ソフトウェア開発事業」「マッチングファンド型ソフトウェア開発・普及事業」に関する説明会を、両事業のプロジェクトマネージャーを務めるカリフォルニア大学アーバイン校 須田達也教授を招いて、2002年8月2日午後1時より大阪大学大学院情報科学研究科AV演習室において実施した。これらの事業は、従来の公募型プロジェクトとは異なり、プロジェクトマネージャーの考えに基づいて課題設定がなされ、プロジェクト提案企業との協議を進めつつその採択が決定されるものである。当日、6社の参加を得て、須田教授からの事業説明、質疑応答が行われた。さらに、4社については個別に須田教授との会合に臨み、それぞれの提案プロジェクトについて須田教授に説明し、須田教授からのフィードバックを得た。残念ながら、OACISを通じた提案プロジェクトは採択には至らなかった。締め切り期日に時間的余裕がなかったことなどによるものであり、OACISにおける日頃の密接な交流を通じて、当該分野における将来動向や研究課題の抽出に関する議論を定期的に行っていくことの重要性を再認識するに至った。

ソフトウェア 工学工房セミナー

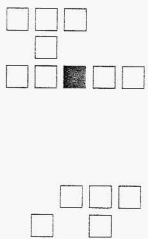
「コードクローン検出ツールCCFinderの利用体験」

開催日時：平成14年11月15日 13:30～16:30

開催場所：大阪大学 サイバーメディアセンター豊中教育研究棟（豊中キャンパス）

講師：大阪大学 大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻
教授 井上 克郎

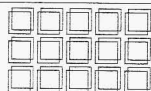
参加人数：26名



本セミナーは、大阪大学大学院情報科学研究科21世紀COEプログラム「ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出」において実施されている「ソフトウェア工学工房」プロジェクトとの共催として実施した。本プロジェクトは、ソフトウェア開発に関する種々の先端技術について、体験しながら技術習得を行うことを目的としている。主に、第一回OACIS技術座談会で好評であったコードクローン検出ツールCCFinderの説明とその利用体験を行った。参加者にはノートパソコンを持参してもらい、CCFinderをインストールし、各社のソフトウェアに対して適用し、実際にクローンを検出するということを行った。第一回OACIS技術座談会にも参加した会員企業からCCFinderの現場での適用事例報告もあり、非常に中身の濃いセミナーを実施できた。

今後の活動拡大方針

- ・研究ワーキンググループ：
個別テーマの継続的な討論会、技術討論会の発展
- ・より多くの大学研究の紹介機会
メールマガジンの発行、修士論文発表やセミナーなどへの参加
目的1：先端技術の実用化（例）ソフトウェア工房構想
目的2：大学、企業研究のあり方
- ・個別技術相談、大学設備を利用した製品の技術検証
- ・最先端IT技術者の育成
大学内の研究室セミナーの公開
研究費受け入れ



OACIS会員の声 (50音順)

「先導的産学連携への期待」

アイテック阪神株式会社 第1システム事業本部長 取締役 上田 敏晴

昨年7月にOACIS発足会に出席する為、30年ぶりに大阪大学吹田キャンパスを訪問したが、その変貌ぶりに驚嘆しました。関西はもとも民間と協力する風潮があり、このような国内外でも先導的な役割を担う研究機関があるのに、何故もっと早くから相互享受できる活動の枠組みがなかったのだろうかと思われた。本フォーラムではコンピュータサイエンス、マルチメディア、バイオマス等とITに関する諸分野が一堂に融合した点に魅力を感じています。今まで大学は基礎研究と人材育成機関との印象をもっていたが、市場・技術動向も踏まえた先行・応用研究が主体活動であるのには驚きました。企業側も連携を取りやすくなり、産学連携は必ず成功すると思いがあります。本年度は技術シーズの紹介が主活動でありましたが、今後は実質的な連携活動にする為、産学連携の活動の枠組みパターンを定義して進める、連携テーマを募り会員に公開する、会員からのニーズを提案できる場を設定する等に期待します。

「OACIS活動への期待と産学連携」

NTTアドバンステクノロジー株式会社西日本本部 副本部長 西門 岩全

IT分野における技術の進展スピードは、その尺度が次々と変更されることに代表されるように予想もつかない速さである。日本の企業にとって、種々の形態での連携、棲み分けが必要となってきている。一方、大学には優秀な人材と意欲的な研究があり、先進的な技術ノウハウが多く蓄積されてきている。残念ながら、それらは世の中に十分生かされてこなかったのではないかと。端的な「連携」と言うことではなく、研究内容を広く産業界に公開し、いろいろなコメントを求めることが少なかったのではないだろうか。大阪大学のOACIS活動は、IT分野の明日を拓く試みの一つとして期待が極めて大きい。私は、OACIS発足以来、シンポジウムや技術座談会等に参加し、本活動が大きな成果をもたらすものと確信をしている。ところで、話を「産学連携」に的を絞る。先般のシンポジウムでも議論があったが、大学と産業界におけるそれぞれの「思い」や「期待」の溝が存在していることは否めない。「産学連携」の進め方として、課題探求・解決型の直接的連携も必要であるが、棲分け論的な間接連携にも大いに期待したい。具体的には、●多面的な技術の追求：ブレイクスルー ●大学発のベンチャー起業：産業界への新風、活力源 ●人材育成と供給：産業界の永続的発展といったところであろうか。取り留めもない内容になったが、大学、産業界共に努力が必要なのはいうまでもない。

「OACISへの期待」

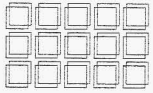
三洋電機株式会社 技術開発本部 総合技術企画部 主管企画員 加藤 清二

設立当初より「IT連携フォーラムOACIS」の会員となり、これまでに各種シンポジウム、技術座談会に出席させて頂きました。それにより、大阪大学大学院情報科学研究科、サイバーメディアセンターにおける研究活動について、多くの情報を得ることができアクティビティに関する理解を深めることが出来ました。しかしながら、まだご紹介頂いていない研究テーマも数多く存在していると思えますので、引き続きご紹介頂きたいと考えております。そして、当社にとって共同研究したくなるようなテーマが見出せば、非常に有難いと思っております。本フォーラムは設立されて、まだ1年も経っていないことから、成果の多くはこれから現れてくることと思いますが、「IT技術とバイオ情報技術を主要テーマとして、大阪大学大学院情報科学研究科と企業が一堂に会する場を作り、日本経済の活性化に貢献すること」という設立目的に相応しい具体的な成果や実績を上げていかれることを期待しております。

「OACISへの参加を振り返って」

株式会社大和コンピューター Solution Products 開発推進室 副室長 竹城 勲

弊社は高槻に本社を置く180名ほどのソフト会社です。ちょうど1年ほど前より産学連携の糸口を探っておりました。その矢先にこのOACISが始まり、その方向へ拍車をかける大きなきっかけとなりました。シンポジウムではさまざまな研究テーマが紹介され、数年先の技術やすぐ実用化に結びつく技術などに触れることができ、多くのメリットを感じています。特にソフトウェア工房では、即業務で使用できるツールを提供して頂き、まさに大学の研究と企業の利益がマッチしたよい事例ではないかと思えます。またこのOACISでは、多数の参加企業との横のつながりができる点も魅力の一つであります。OACISはまだ始まったばかりですので、より活発化し、連携をさらに強めていくことは、これからの厳しい時代に生き延びるための重要な要因になると思えます。今後さらに発展していくことを期待しております。



役員

I アドバイザリーボードメンバー (任期：2年)

山田 隆持 西日本電信電話株式会社 常務取締役 ソリューション営業本部長
 楠木 好明 松下電器産業株式会社 代表取締役 常務
 山田 忠利 三菱電機株式会社 役員理事 先端技術総合研究所 所長
 大野 隆夫 大阪商工会議所 専務理事
 萩尾 千里 社団法人関西経済同友会 事務局長
 藤本 明夫 社団法人関西経済連合会 専務理事

III ステアリング・コミッティーメンバー (任期：2年)

浜場 邦洋 関西電力株式会社 グループ経営推進室 チーフマネージャー
 若井 裕久 シャープ株式会社 技術戦略企画室 企画グループ
 森原 一郎 西日本電信電話株式会社 ソリューション営業本部 担当部長
 青井 孝敏 松下電器産業株式会社 マルチメディア技術担当室 グループマネージャー
 塩野 悟 三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 部長
 村田 正幸 大阪大学 サイバーメディアセンター
 吉田 敏臣 大阪大学 大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻
 岸野 文郎 大阪大学 大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻
 今瀬 真 大阪大学 大学院情報科学研究科情報ネットワーク学専攻
 菊野 亨 大阪大学 大学院情報科学研究科情報システム工学専攻

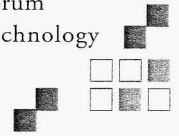
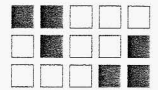
II 監事 (任期：2年)

古野 清和 古野電気株式会社 常務取締役 技術研究所長

参画企業

(50音順)

株式会社アイデス
 アイテック阪神株式会社
 株式会社アクセル
 NTTアイティ株式会社
 NTTアドバンステクノロジー株式会社
 NTTコムウェア株式会社
 NTTスマートコネクスト株式会社
 NTTソフトウェア株式会社
 株式会社NTTドコモ関西
 株式会社NTTネオメイト
 株式会社NTTPCコミュニケーションズ
 株式会社NTTファシリティーズ
 NTTラーニングシステムズ株式会社
 沖電気工業株式会社
 オムロン株式会社
 株式会社オリリオン・コーポレーション・ジャパン
 関西電力株式会社
 関電情報システム株式会社
 株式会社香寺ハーフガーデン
 サン・マイクロシステムズ株式会社
 三洋電機株式会社
 シスコスシステムズ株式会社
 株式会社島津製作所
 シャープ株式会社
 新日鉄ソリューションズ株式会社
 株式会社スーパーステーション
 住商情報システム株式会社
 株式会社スリーディー
 ソニー株式会社
 株式会社ソリッドレイ研究所
 ダイキン工業株式会社
 株式会社ダイヘン
 株式会社大和コンピュータ
 武田薬品工業株式会社
 TIS株式会社
 株式会社ディンクス
 株式会社 デンソー
 監査法人トーマツ
 西日本電信電話株式会社
 日商エレクトロニクス株式会社
 日本電気株式会社
 日本電信電話株式会社
 株式会社ネットマークス
 日立公共システムエンジニアリング株式会社
 株式会社日立システムアンドサービス
 古野電気株式会社
 松下電器産業株式会社
 松下電工株式会社
 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
 三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
 三菱電機株式会社
 三菱電機コントロールソフトウェア株式会社
 三菱電機情報ネットワーク株式会社
 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
 三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
 ローム株式会社



発起人

(役職は平成15年3月31日現在)

大阪大学 前大学院工学研究科長	白川 功
大阪大学 大学院情報科学研究科長	宮原 秀夫
大阪大学 サイバーメディアセンター長	西尾章治郎
オムロン株式会社 取締役副社長 技術本部長	市原 達朗
関西電力株式会社 取締役 経営改革・IT本部副本部長	北本 浩之
三洋電機株式会社 執行役員 技術開発本部 本部長	寺田 房夫
株式会社島津製作所 取締役 分析計測事業部長	中本 晃
シャープ株式会社 常務取締役 技術戦略企画室長	河田 亨
新日鉄ソリューションズ株式会社 関西支社長	古川 弘
ソニー株式会社 関西代表	金田 嘉行
住友電気工業株式会社 常務取締役	吉田 健一
ダイキン工業株式会社 常務取締役	二宮 清
武田薬品工業株式会社 取締役 製品戦略部長	隅野 靖弘
西日本電信電話株式会社 代表取締役 社長	上野 至大
松下電器産業株式会社 代表取締役 常務	櫛木 好明
松下電工株式会社 取締役 新事業推進担当	野村 淳二
三菱電機株式会社 常務取締役 関西支社長	神戸 史全
古野電気株式会社 常務取締役 技術開発研究所長	古野 清和
ローム株式会社 常務取締役	疋田 純一

NEWS NEWS

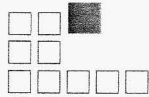
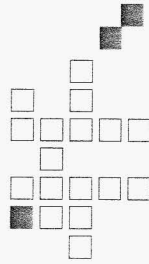
「情報科学研究科新棟の建設が決定」

情報系総合研究棟の第I期建物が、平成14年度の補正予算で認められた。5,550㎡で地上6階建(予定)で、吹田キャンパス(大阪大学コンベンションセンターの西隣)に平成16年3月に完成予定である。情報系総合研究棟は、大学院情報科学研究科のセンターとしての機能をもつことになる。今後のOACISの活動もより円滑に行うことが期待できる。

サイバーメディアセンター 豊中教育研究棟が完成。

平成14年8月10日に豊中キャンパスの付属図書館本館東側にサイバーメディアセンター豊中教育研究棟が竣工した。建物は、延べ面積7,218㎡で地下1階、地上7階で、大阪大学豊中地区のキャンパスネットワーク、情報通信教育、計算機利用による教育など情報通信基盤の中核を担うものである。最新のネットワーク機器、クラスター計算機も装備されており、OACISでのネットワーク実験などにも利用されることが期待できる。





OACIS

Osaka Advanced Research
Collaboration Forum for
Information Science & Technology

